AmiVoice Keyboard

ユーザーズガイド

Advanced Media, Inc.
株式会社アドバンスト・メディア

目次

1	リンク ▶	はじめに	3
2	リンク ▶	マイク接続	5
3	リンク ▶	概要	6
4	リンク ▶	インストール/アンインストール	7
5	リンク ▶	アプリケーションの起動/終了	8
6	リンク ▶	コマンドラインからの起動について	9
7	リンク ▶	操作方法 – 音声認識バー	10
8	リンク ▶	操作方法 – ユーザー切替え画面	11
9	リンク ▶	操作方法 – キーリスト画面	13
10	リンク ▶	操作方法 – キー編集画面	16
11	リンク ▶	操作方法 – 音声認識設定	19
12	リンク ▶	操作方法 – 合成音声設定	21
13	リンク ▶	操作方法 – 声マウス設定	22
14	リンク ▶	キー登録例	23
15	リンク ▶	用語集	27
16	リンク ▶	お問い合わせ窓口／特記事項	28

はじめに

AmiVoice® Keybord について

AmiVoice® Keyboardは音声認識機能を使って利用中のウィンドウ（アクティブウィンドウ）に対してキーボードコードを仮想的に通知するシステムです。たとえばエクセルの入力欄にカーソルがある状態で「いち・えんたー」と発話すると数字の１を入力して次の欄に進むという動作を実行します。

一例としてエクセルでご説明いたしましたが、既にお使いの各種アプリケーションのキー操作を***AmiVoice® Keyboard***でコントロールする事が可能です。

また音声合成機能を実装していますので、認識結果を音声で確認する事ができます。この機能により画面で確認が難しい状況や、無線ヘッドセットマイクを利用したハンズフリー、アイズフリーな状況でPCを操作する事も可能です。

※ 全てのアプリケーションのキー操作を保証するものではありません。

動作環境	
対応OS	Windows 8.1, Windows 10　32 / 64bit 日本語版, Windows 11 64bit 日本語版 ※64bit版は WOW64による32bit互換アプリとして動作 ※Windows10/11はMicrosoftがサポートをしているバージョン以前は対象外となります
CPU	2GHz以上（OS推奨スペックに準拠）
メモリ	2GB以上（4GB以上推奨　OS推奨スペックに準拠）
ＨＤＤ	500MB以上の空き容量
HW	マイク録音をサポートしているサウンドデバイス（オンボード可）
必要ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 4.5.2 ※インストール時に「Microsoft .NET Framework4.5.2がインストールされていません」の 警告が出た場合は付属の NDP452-KB2901907-x86-x64-AllOS-ENU.exe　及び NDP452-KB2901907-x86-x64-AllOS-JPN.exe　を実行し Microsoft® .NET Framework 4.5.2をインストールしてご使用ください。

注意事項

- 上記スペック内であっても動作環境により本ソフトウェアの動作に負荷がかかる場合があります。
- マイクなどの音声入力機器によっては音声認識に使用するエンジンと相性が悪い場合があります。推奨するマイクなどがございますのでご相談ください。
- WOW64による32bit互換アプリとして動作させる場合、64bitアプリケーションに対しての音声認識によるキー操作などが正常に動作しない場合があります。

はじめに

音声認識について

本製品に使用している音声認識技術は、あらかじめ登録してある認識対象語（単語・文章）が、正確に発話されているかどうかを判断するために使われています。また、音声認識は無音部分を見つけると、発話が終了したと判断するので、発話の途中で無音部分を入れたり、つかえたりすると、認識ができないことがあります。そのときは、発話内容を確認し、一息で発話しなおしてください。

ヘッドセットマイクについて

【写真1】　【写真2】　【写真3】

ヘッドセットマイクは、【写真1】のように、正しく装着してください。【写真2】のように、手で持って発話しますと、音声が正確に拾えず、音声認識の精度が落ちてしまいます。また、発話する際、【写真3】のようにマイクを触ってしまいますと、音声認識の精度が落ちてしまいます。マイクの位置をあらかじめ固定し、発話中には触らないでください。

無線マイクについて

無線ヘッドセットマイクを利用される際には、製品に付属するマニュアルの注意事項を確認し、まわりの無線環境や雑音・騒音環境を確認して最適な場所での利用をお願いいたします。

推奨マイク (2021/11/1 時点)

- 無線：　アドバンスト・メディア　***AmiVoice Front WT01***　(MFBのダブルクリックで録音開始・停止が制御可能)
- 有線：　アドバンスト・メディア　***AmiVoice Front PT01***、VR12

※AmiVoice Front WT01は高音質でPCと接続できるBluetoothドングル、「ゼンハイザー　BTD800USB」を合わせてご利用下さい。

マイク接続 / サウンドデバイスの接続について

本製品に使用するサウンドデバイスは以下のように設定します。

本製品上で右クリックしボリューム調整を選択します。

再生タブ

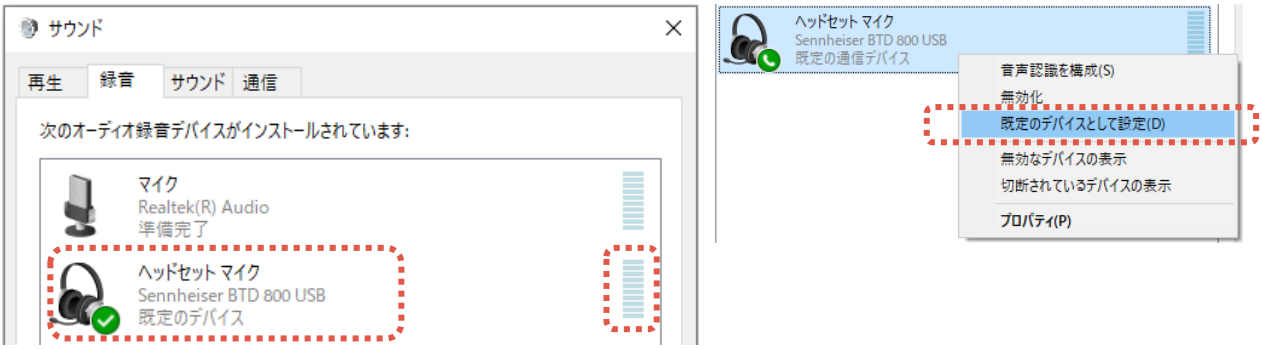
対象のサウンドデバイスが「既定のデバイス」に設定されていることを確認し、テスト再生等で対象のサウンドデバイスから再生されることを確認します。

「既定のデバイス」に設定されていない場合は対象のサウンドデバイスを選択し右クリックで「既定のデバイスとして設定」を選択します。デバイスが無効の場合は有効を選択してから上記手順で設定します。

録音タブ

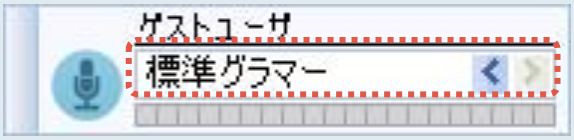
対象のサウンドデバイスが「既定のデバイス」に設定されていることを確認し、テスト再生等で対象のサウンドデバイスから音が入るかボリュームメータで確認します。

「再生」タブと同様に「既定のデバイス」に設定されていない場合は対象のサウンドデバイスを選択し右クリックで「既定のデバイスとして設定」を選択します。デバイスが無効の場合は有効を選択してから上記手順で設定します。



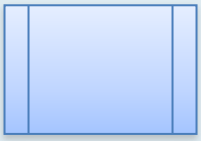
概要 / ご利用イメージ

音声認識したい内容が含まれるキーリスト※1を選択



音声認識で操作するアプリケーションを起動

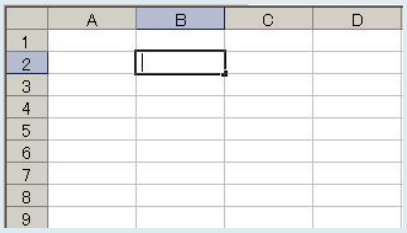
(ここではMicrosoft Excel)



マイクマークボタンを押下

(音声認識開始)

音声認識開始後に入力フォーカスを設定する。

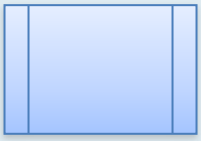


発話 / 合成音声

または

画面の確認

音声合成または画面で動作を確認する。



マイクマークボタンを押下

(音声認識終了)

※1 キーリストについて

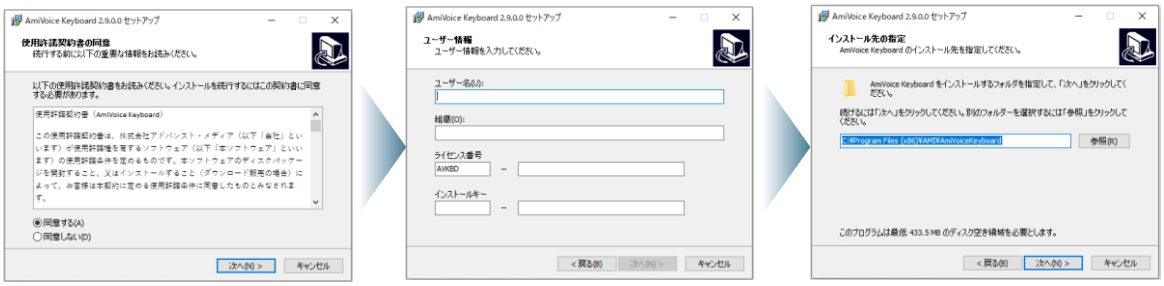
キーリストとは、音声認識をしたい単語と音声認識時に再生される内容、音声認識時に実行されるキーコードの設定のリストファイルです。

標準インストールされているものは、0(ぜろ)～9(きゅー)の数字が音声認識できるキーリストですが、AmiVoiceKeyboardで編集することで、他の単語も音声認識できるようにできます。

インストール / アンインストール

インストール

CDなどに含まれるsetup.exe（上記イメージ）をダブルクリックするとセットアップが開始します。



セットアップ画面ではダイヤログ内のメッセージを確認し「次へ」ボタンを押して進めてください。

また、プログラム保存先、プログラム登録名称は内容を確認して必要な場合には内容を修正して設定してください。

インストールが完了するとデスクトップにアイコンが設定され、スタートメニュー内に「AMI」項目が追加されます。「AMI」内には「AmiVoiceKeyboard」が追加されていますので、プログラムの実行にはどちらかを選んで実行してください。

アンインストール

スタートメニュー内の「AMI」項目のアンインストールを実行してください。

または、 WindowsOS機能の『プログラムの追加と削除』画面より削除してください。

アプリケーションの起動 / 終了

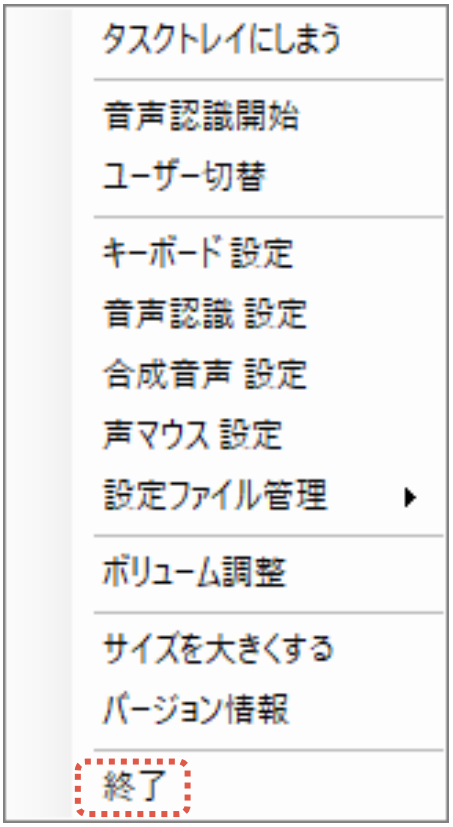
起動方法

デスクトップアイコンを
ダブルクリックで起動

起動に成功した場合は音声認識バーが表示されます。

すでに起動している場合は起動できません。
（多重起動はできません）

終了方法

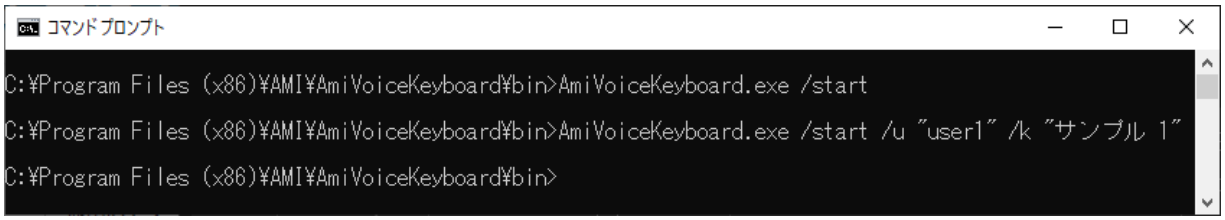


画面内で右クリックを行うとポップアップメニューが表示されます。

メニュー内から終了を選ぶことで、アプリケーションが終了します。

コマンドラインからの起動について

起動方法



AmiVoice Keyboardはコマンドラインから起動することも可能です（開発者向け）。

初回起動時だけでなく起動中のAmiVoice Keyboardに対して操作することができます。複数のオプションを組み合わせることで、ユーザーやキーリストを変更して音声認識を開始することが可能です。

コマンドラインから起動する際のオプションは以下の通りです。

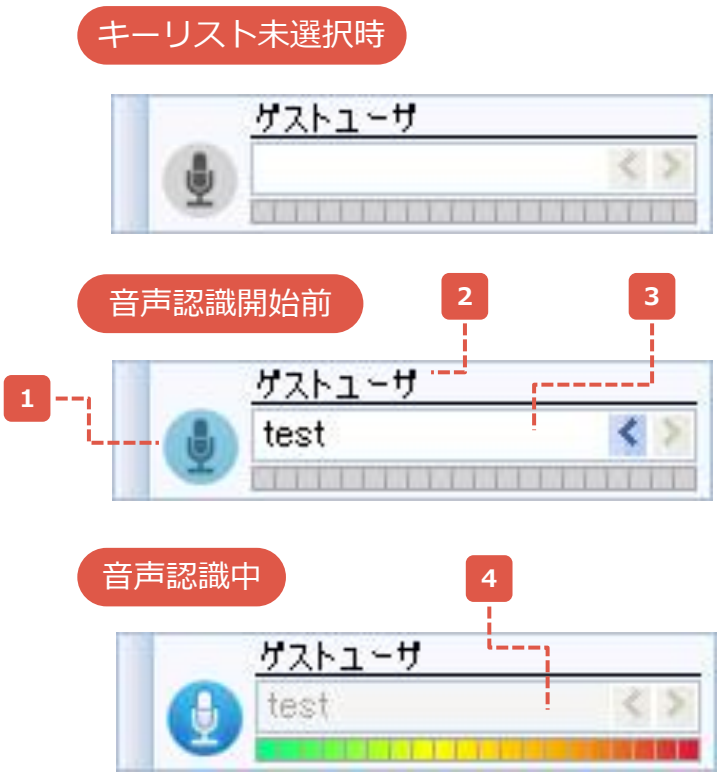
優先順位	引数(大文字可)	アプリが起動していない状態	アプリが既に起動している状態
1	/kill	(アプリは起動しません)	アプリを終了します。
2	/msg=***	2 位置情報ファイル(bin¥location.dat)を削除してアプリを起動します。	一度アプリを終了し、位置情報ファイル(bin¥location.dat)を削除してアプリを再起動します
3	/u "user1" または /u user2	ユーザー切替画面を表示せずに指定ユーザーで起動します。 (該当ユーザーがいない場合は前回終了時のユーザーで起動します。こちらは、ユーザー選択画面の設定でユーザー選択画面を表示させることもできます)	非録音状態の場合、ユーザーを切り替えます。 既に録音状態の場合、録音を停止した後ユーザーを切り替えます。
4	新しいキーを追加	指定のキーリストを初期選択します。 (該当のキーリストがない場合前回終了時に選択されていたキーリストになります)	非録音状態の場合、キーリストを切り替えます。 既に録音状態の場合、録音を停止した後キーリストを切り替えます。
5	/stop	通常のアプリ起動を実施します。	非録音状態の場合、何もしません。 既に録音状態の場合、録音を停止します。
6	/start	アプリを起動し、録音開始します。	非録音状態の場合、アプリの録音を開始します。 既に録音状態の場合は録音を継続します。 (アプリが設定画面を開いているときは録音開始されません)

※ユーザー名やキーリスト名に半角スペースがある場合、「""」で囲む必要があります。

操作方法 /音声認識バー

アプリケーションのメイン画面です。

音声認識の開始/停止と各種設定画面などを呼出せます。

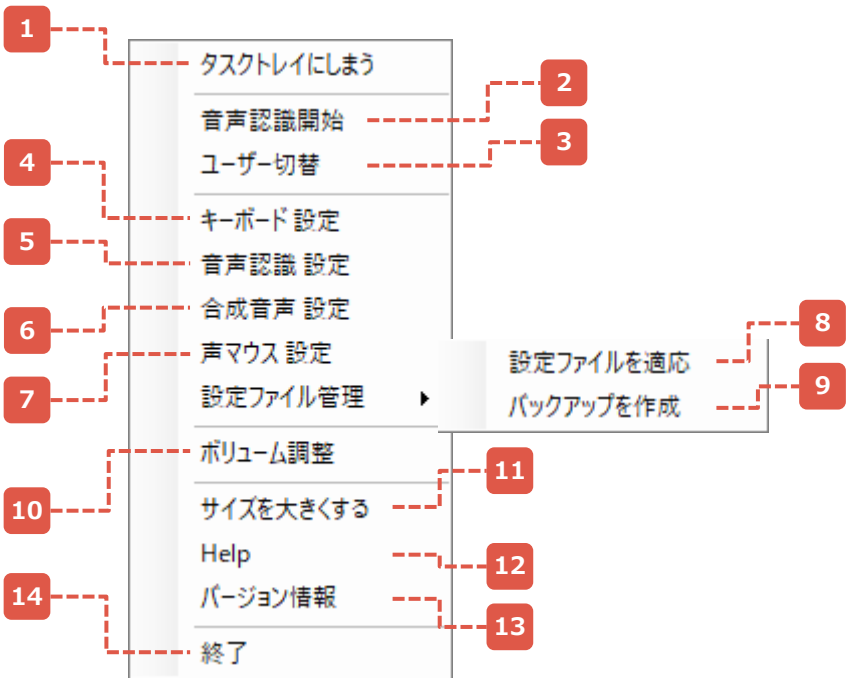


項番	項目名	処理の内容
1	マイクボタン	音声認識をするための録音をON/OFFします。 ボタンがグレーで押せない状態の時はキーリスト選択でキーリストを選択してください。
2	選択ユーザー名	現在のユーザーを表示。複数ユーザーが登録されている場合は、現在使用しているユーザー名が表示されます。 ※特定のユーザーを指定しないゲストユーザーのままでもご利用いただけます。 **備考** 音声認識の自動学習機能を複数人で使用する場合などで、ユーザー登録をしていただく場合があります。
3	キーリスト選択	音声認識で使用するキーリストを選択します。 変更したい場合は録音を止める必要があります。 キーリスト選択に何も表示されていなく「<」「>」ボタンが灰色の場合はキーリストが未登録な状態です。 **備考** キーリストが未登録の場合は、キーリストを先に作成する必要があります。
4	ボリュームメータ	音声認識時の録音ボリュームメータです。メータが緑から黄色になる程度のボリュームで発話してください。

操作方法 / 音声認識バー ポップアップメニュー

ポップアップメニューは、マウス右クリックで呼出せます。

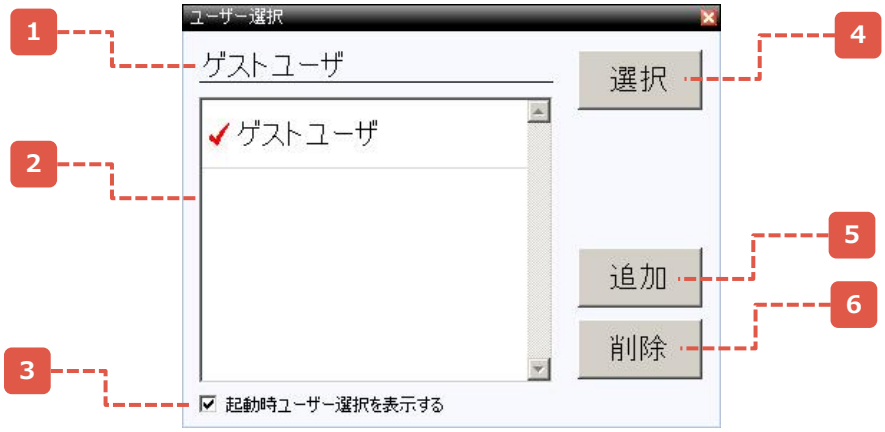
タスクトレイ格納中の場合は、タスクトレイアイコンを右クリックしてください。

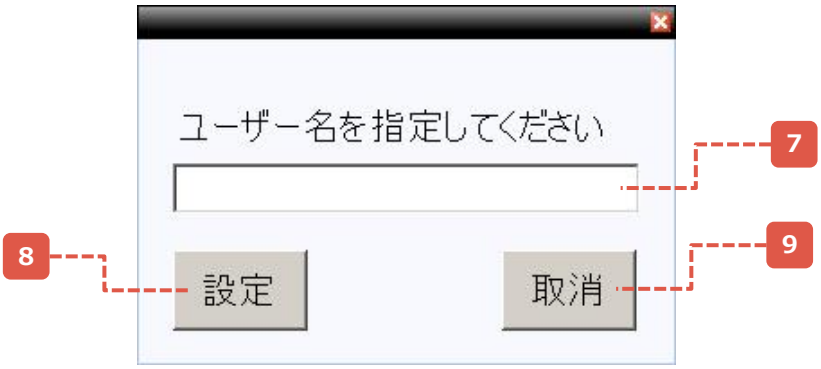


項番	項目名	処理の内容	備考
1	タスクトレイにしまう/出す	音声認識バーをタスクトレイに格納します。格納されている場合は元に戻します。	
2	音声認識開始/停止	マイクボタンと同じ動きをします。	
3	ユーザー切替	ユーザー切替画面を呼び出します。	録音中は使用できません。
4	キーボード設定	キーリスト画面を呼び出します。	録音中は使用できません。
5	音声認識設定	音声認識設定画面を呼び出します。	録音中は使用できません。
6	合成音声設定	合成音声設定画面を呼び出します。	録音中は使用できません。
7	声マウス設定	声マウス設定画面を呼び出します。	録音中は使用できません。
8	設定ファイルを適応	設定ファイルのバックアップなどを適応します。	録音中は使用できません。
9	バックアップを作成	設定ファイルのバックアップなどを作成します。	録音中は使用できません。
10	ボリューム調整	Windowsの録音コントロールを呼び出します。	
11	サイズを大きくする/小さくする	音声認識バーの大きさを変更します。	録音中は使用できません。
12	Help	Help表示画面を呼び出します。	
13	バージョン情報	バージョン情報表示画面を呼び出します。	録音中は使用できません。
14	終了	アプリケーションを終了します。	

操作方法 /ユーザー切替画面

ユーザー切替画面では、ユーザーの追加/削除と切替ができます。





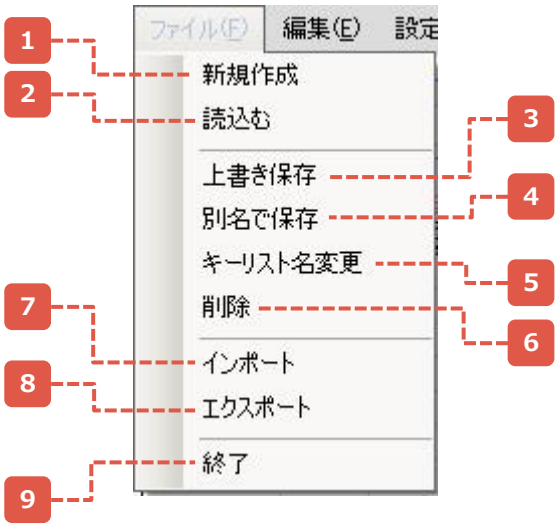
項番	項目名	処理の内容
1	選択ユーザー	選択されているユーザー名。
2	ユーザーリスト	ユーザーを選択します。
3	起動時ユーザ選択画面表示設定	起動時にユーザ選択画面を表示するかどうかを設定します。
4	選択ボタン	選択を確定して、画面を閉じます。
5	追加ボタン保存	ユーザー追加画面を表示します。
6	削除ボタン	ユーザーを削除します。 削除したユーザーは元に戻せません。
7	ユーザー名入力	追加したいユーザー名を入力してください。
8	設定ボタン	ユーザーの追加を確定させます。 なお追加したユーザー名は変更できません。
9	取消ボタン	ユーザーの追加を取り消します。

操作方法 /キーリスト画面

キーリストの追加/編集ができます。

項番	項目名	処理の内容
1	キーリスト選択	編集したいキーリストを選択します。 読込むボタンで選択が確定されます。
2	選択されているキーリスト	選択されているキーリスト名が表示されます。 編集を開始する前に正しく選択されているか確認してください。
3	キーリスト	登録済みキーが表示されます。 キーコード以外はリスト上で編集できます。 キーコードをクリックすると、キー編集画面が表示されます。 キーを選択してハードウエアキーボードのDeleteキーで削除できます。 **備考** リスト上の編集の場合エラーチェックは上書き保存時に行われます。 リスト上での編集は操作に慣れてからをおすすめします。
4	新しいキーを追加	定型の新しいキーを追加します。 追加するキーをリスト上である程度編集をしたい場合などに使用してください。
5	上書保存	編集中のキーリストを保存します。

操作方法 / キーリスト画面 メニュー



項番	項目名	処理の内容
1	新規作成	空のキーリストを作成します。
2	読込む	キーリスト選択の読込むボタンと同じです。
3	上書き保存	上書保存ボタンと同じです。
4	別名で保存	別のキーリスト名で保存します。
5	キーリスト名変更	キーリスト名を変更します。
6	削除	キーリストを完全に削除します。
7	インポート	キーリストおよび、互換性のあるcsv形式ファイルをインポートします。※１
8	エクスポート	キーリストファイルをエクスポートします。
9	終了	キーリスト画面を閉じます。

※1 インポート可能なファイルフォーマットについて

1

音声認識よみ(ひらがな表記)のcsv,tsv,txt

例
いか
たこ
うに

2

表記/音声認識よみ(ひらがな表記)のtab区切りcsv,tsv,txt

例
いか　烏賊
たこ　蛸
うに　海栗

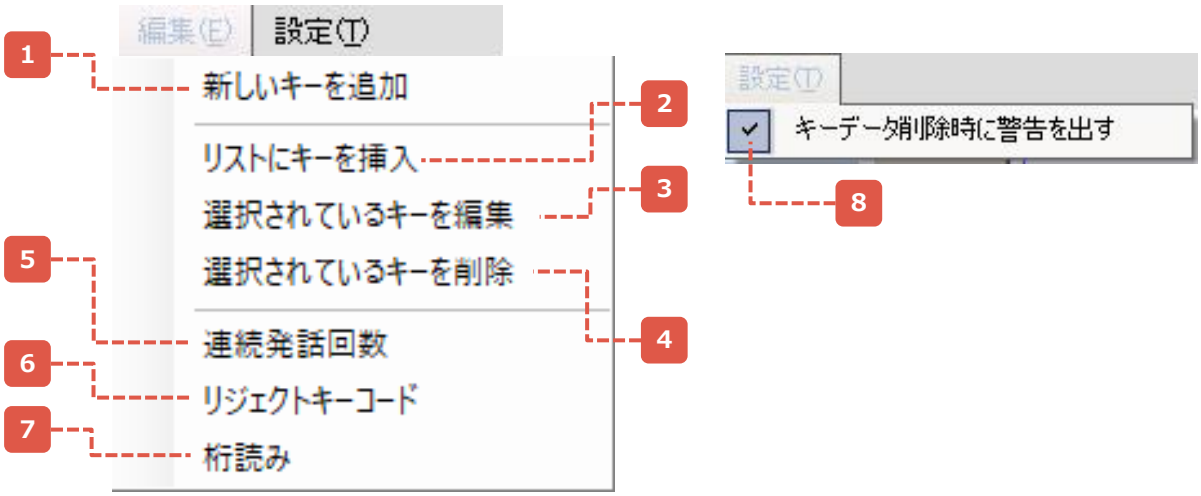
3

エクスポートしたキーリストファイル

（以前のバージョンのキーリストでもよい）

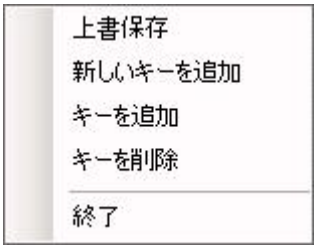
操作方法

キーリスト画面 メニュー



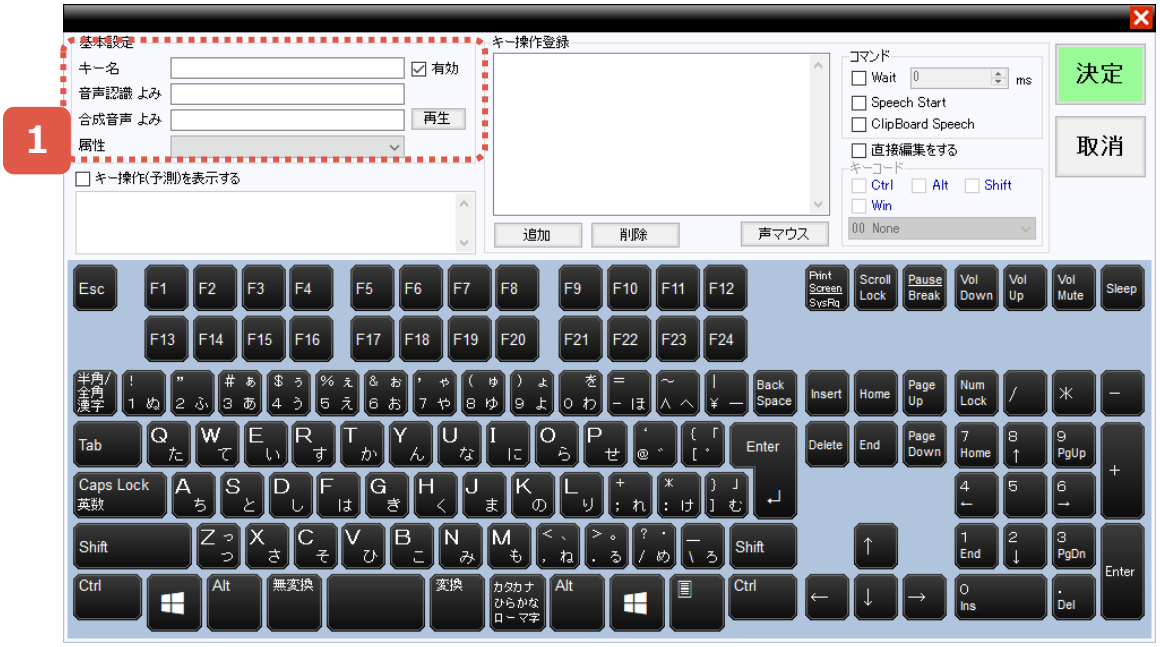
項番	項目名	処理の内容
1	新しいキーを追加	新しいキーを追加ボタンと同じです。
2	リストにキーを編集	空のキーを編集ボタンと同じです。
3	選択されているキーを編集	選択されているキーを編集します。
4	選択されているキーを削除	選択されているキーを削除します。
5	連続発話回数	キーの連続発話回数を指定したい場合設定します。
6	リジェクトキーコード	音声認識失敗時に仮想キーを送信したい場合設定します。
7	桁読み	桁読み設定を表示します。
8	キーデータ削除時に警告を出す	キーを削除時に表示される警告メッセージを出すかどうか指定します。

右クリックで表示されるメニューの内容も上記内容と同様の処理がされます。



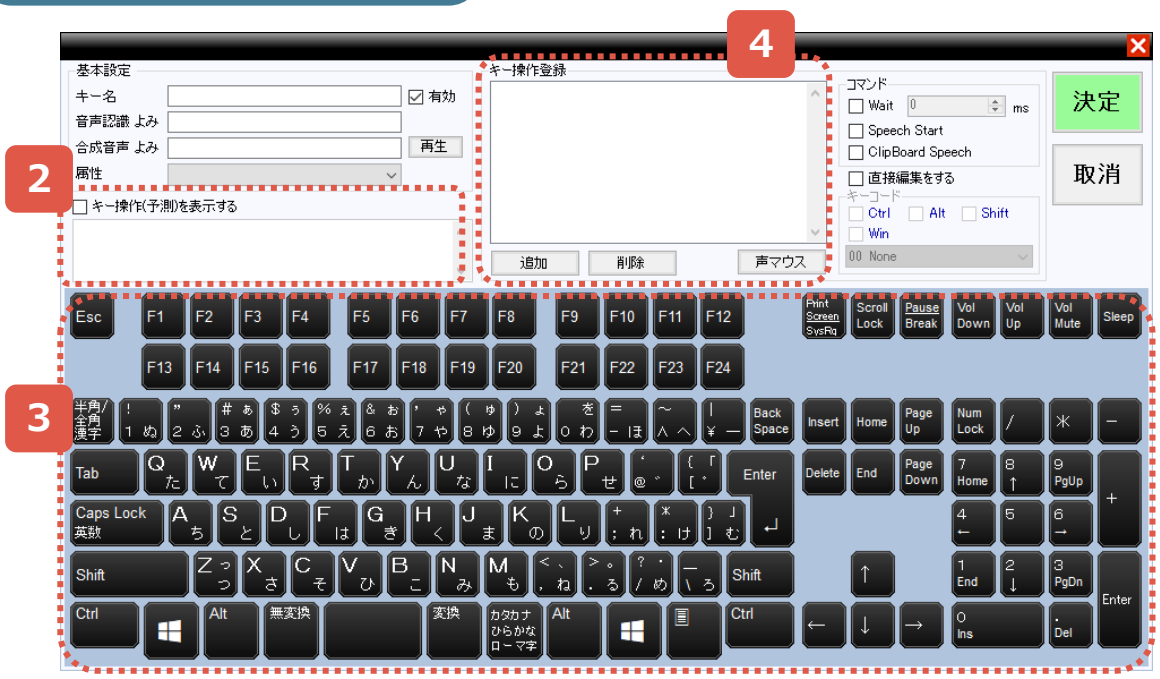
操作方法 /キー編集画面

キー編集画面（その１）



項番	項目名	内容
1	基本設定 － キー名	任意のキー名を設定してください。 CopyPasteモードで表示される文字にもなります。※必須項目
	基本設定 － 音声認識 よみ	音声認識する読みがなです。全角ひらがな、「ー」(長音)、「.」（区切記号）が使用できます。※必須項目
	基本設定 － 合成音声 よみ	合成音声する読みがなです。全角ひらがな、「ー」(長音) 、「/」（区切記号） 、「'」(アクセント記号)が使用できます。 また、再生ボタンで再生テストが行えます。 何も再生されない場合は入力に間違えがありますので、 修正してください。
	基本設定 － 属性	キーの属性を指定します。 **Only** 一回の音声認識中でこのキーの内容のみを実行します。 **Top** 一回の音声認識中でこのキー以前の内容を無視します。 **Last** 一回の音声認識中でこのキー以降の内容を無視します。 **Copy** キー名をクリップボードに送ります。 **CopyPaste** キー名をクリップボードに送り、Ctrl+Vを送信します。(Only属性)

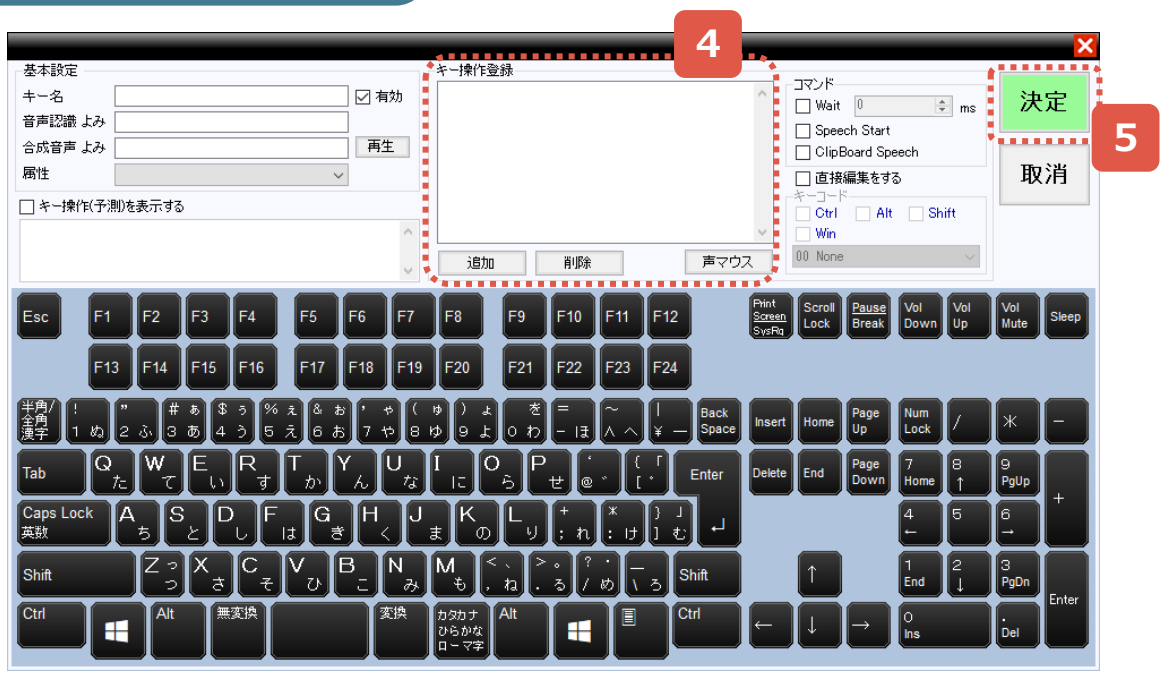
キー編集画面（その２）



項番	項目名	内容
2	キー操作(予測)を表示する	チェックをONにしている場合、キーリストに登録されている内容をチェック下のテキストボックスに送信します。実際にキーコードを送信するため、特殊キーを指定した場合はチェックをOFFにしてください。
3	キーボード画面	キー操作登録したいキーを選択します。 マウスクリックで選択(オレンジ)／解除(黒)できます。キーがアクティブの場合、ハードウェア キーボードの「Enter」キーで登録済み操作リストに追加できます。
4	キー操作 登録済み操作	登録されているキーコードなどが実行順に表示されています。 登録済み操作リストがアクティブの場合、ハードウェア キーボードの「Del」キーで選択されている項目を削除できます。
	コマンド	キー操作以外の特殊操作を指定します。 **Wait** 操作に実行待ちを追加します(ミリ秒単位) **Speech Start** 合成音声再生を開始します。 **ClipBoard Speech** クリップボードのひらがなテキストの音声合成再生を開始します。 **備考** Speech Startが未指定の場合は処理完了タイミングで再生を開始します。 「Ctrl+C」実行後にClipBoard Speechを実行する場合は間にWait=100以上を入れてください ※22Pに登録例を記載しております。

操作方法 /キー編集画面

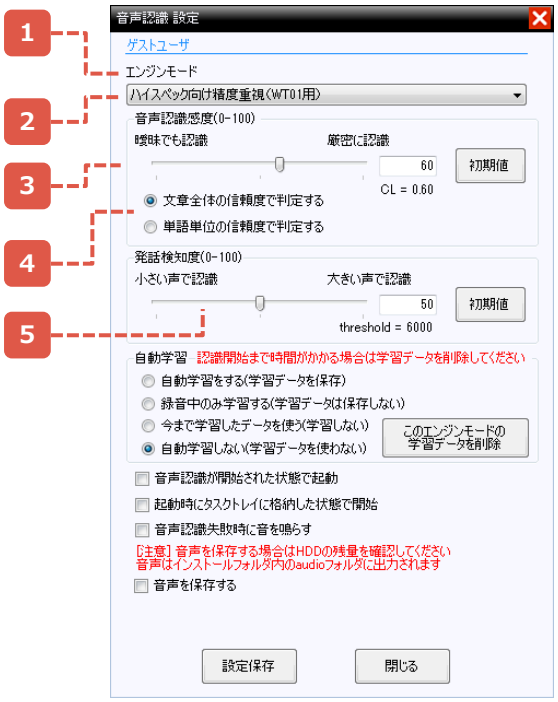
キー編集画面（その３）



項番	項目名	内容
4	キー操作 キーコード	※この設定は開発者向けです。 「直接編集をする」にチェックを入れるとキーコードを直接指定できます。
	追加／削除ボタン	選択されている項目を追加/削除します。
5	声マウス	声マウスで登録した内容を選択します。
	決定／取消ボタン	「決定」ボタンの押下で編集内容を決定します。 「取消」ボタンを押下すると編集内容を破棄し、キーリスト画面に戻ります。

操作方法 / 音声認識設定画面

音声認識設定画面



※1「**エンジンモード**」

標準スペック向け精度重視（WT01用）
ウェアラブルマイク***AmiVoice Front WT01***向けのエンジンモードです。

標準ペック向け精度重視（その他マイク用）
PCのマイク端子、USB接続されているヘッドセット型のマイク、無線Bluetoothマイクを利用している場合に使うエンジンモードです。

スピード重視
認識スピードを重視したい場合に使うエンジンモードです。認識精度が精度重視に比べて出にくい場合があります。

ハイスペック向け精度重視（WT01用）
ウェアラブルマイク***AmiVoice Front WT01***向けのエンジンモードです。

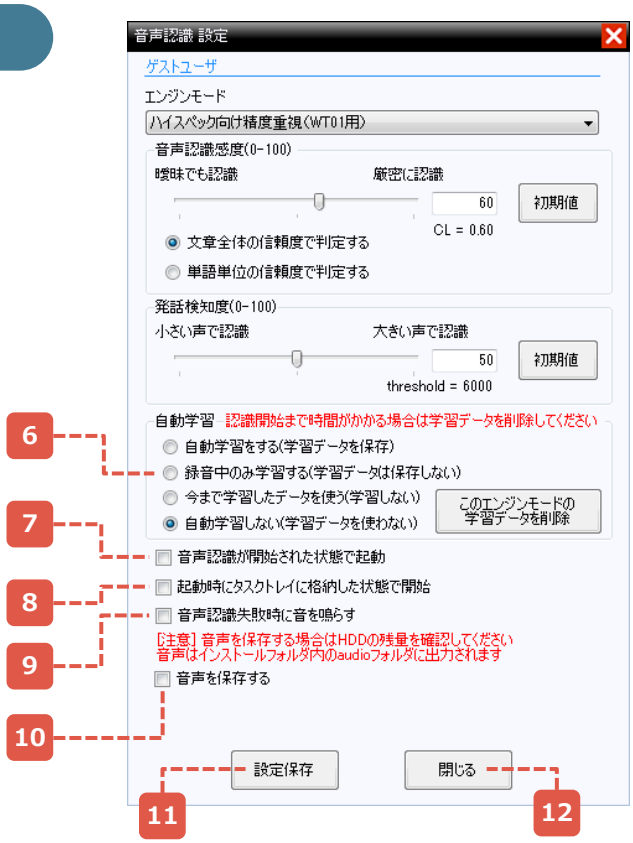
ハイスペック向け精度重視（その他マイク用）
PCのマイク端子、USB接続されているヘッドセット型 のマイク、無線Bluetoothマイクを利用している場合に使うエンジンモードです。

ハイスペック向け精度重視(BiLSTM)
最も精度が見込めるエンジンモードです。PCのスペックによっては認識結果の計算に時間がかかることがあります。

項番	項目名	処理の内容
1	ユーザー名	現在選択されているユーザー名が表示されます。
2	エンジンモード	音声認識で利用するエンジンモードを指定します。※1
3	音声認識感度	音声認識の感度を設定します。 小さくすると認識しやすくなりますが、誤認識も増えます。
4	文章全体の…	発話した文章全体の信頼度が指定の音声認識感度を上回ったとき認識します。 （発話途中にいい澱みがあると認識しづらくなります。）
	単語単位の…	発話した文章の単語ごとの信頼度が指定の音声認識感度を上回った単語のみ認識します。 （発話途中にいい澱みがあってもそれ以前の単語まで認識します。）
5	発話検知度	発話検知に関わる設定値を指定します。

操作方法 / 音声認識設定画面その2

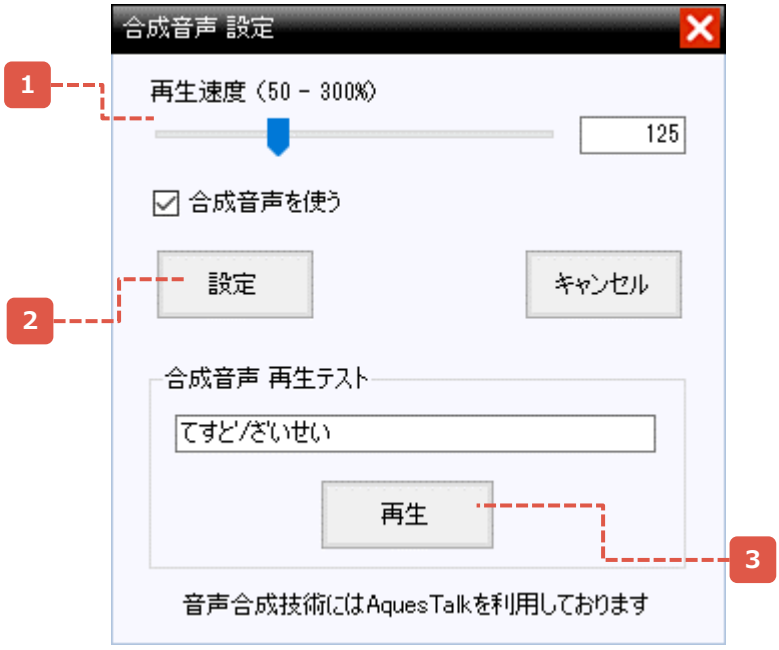
音声認識設定画面（その2）



項番	項目名	処理の内容
6	自動学習	自動学習を行うかどうか指定します。 自動学習したデータは使用しているエンジンモードごとに保存されます。 学習データをリセットしたい場合は削除ボタンを押してください。
7	音声認識が開始された状態で起動	起動時に音声認識を開始した状態で起動します。前回指定していたキーリストで音声認識を開始します。
8	起動時にﾀｽｸﾄﾚｲに…	次回起動時にﾀｽｸﾄﾚｲに格納した状態にするかどうかを指定します。
9	音声認識失敗時に…	音声認識失敗時に効果音（ピピッ）を鳴らすかどうかを指定します。
10	音声を保存	録音中の音声を保存します。
11 12	設定保存/閉じる	音声認識設定画面を閉じます。 設定した内容を反映させたい場合は閉じる前に設定保存ボタンを押してください。

操作方法 /合成音声設定画面

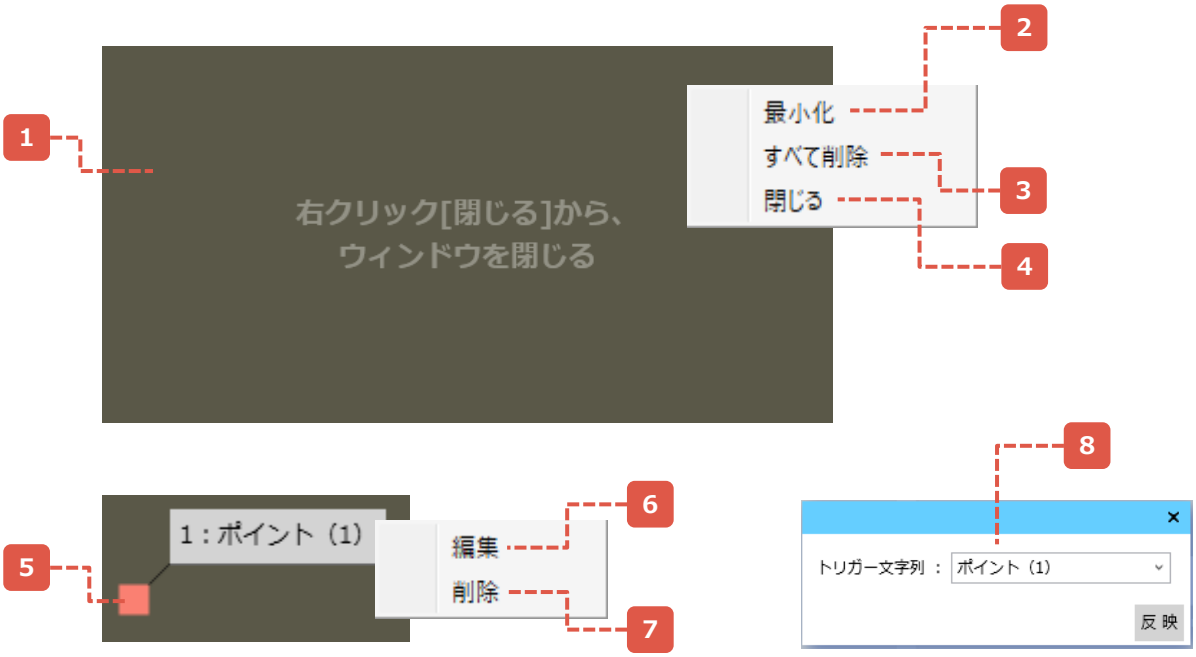
合成音声設定画面



項番	項目名	処理の内容
1	再生速度	合成音声の再生速度を設定します。
2	設定	設定を反映させます。
3	再生テスト	合成音声の再生速度の確認を行います。 確認を開始したい場合は再生ボタンを押してください。

操作方法 / 声マウス設定画面

マウスカーソルの移動とクリックを音声で操作したい場合に使用します
設定後、キーリスト編集でキー設定を行います



項番	項目名	処理の内容
1	声マウス設定画面	フルスクリーン表示で半透明画面が表示されます 任意の箇所でダブルクリックをするとマークが追加されます マーク以外の場所をドラックしてマウス移動することで 登録したマークすべての位置を移動することもできます
2	最小化	設定画面を最小化します。
3	すべて削除	マークをすべて削除します。
4	閉じる	設定画面を閉じて設定内容を保存します。
5	マーク	マウス位置。
6	編集	マーク名編集を表示します。
7	削除	マークを削除。
8	マーク名編集	マーク名を編集します。

キー登録例 / 設定例1

特定型番の入力

型番の先頭がある程度決まっている場合にそれらを複合キーとして登録することで作業が効率化します。

例　「RCP-10」「RCP-20X」「RCP-30」という型番を入力する場合、先頭の「RCP-」を登録します。

1. 「キー追加」
2. 「SHIFT」＋「R」を選択
3. 「追加」（又はEnterキーの押下）
4. 「SHIFT」＋「C」を選択
5. 「追加」（又はEnterキーの押下）
6. 「SHIFT」＋「P」を選択
7. 「追加」（又はEnterキーの押下）
8. 「SHIFT」＋「R」を選択
9. 「追加」（又はEnterキーの押下）
10. 「-」を選択
11. 「追加」（又はEnterキーの押下）
12. 「キー操作(予測)を表示する」にチェックを入れて、テキストエリアに「RCP-」が表示される事を確認します。
13. 「キー名」を登録します。※ここでは「RCP－」と設定。
14. 「音声認識 よみ」を登録します。※ここでは「あーるしーぴー」と設定。
15. 「合成音声 よみ」を登録します。※ここでは「あーる/しー/ぴー」と設定。
16. 必要に応じて「属性」を登録します。※ここでは「Top」属性を指定。
17. 「決定」で保存します。

設定後のイメージ

上記の登録によって、「あーるしーぴーいちぜろ」「あーるしーぴーにーぜろえっくす」などの発話によって、それぞれ「RCP-10」、「RCP-20X」と入力することができます。

キーは単純な文字だけでなくファンクションキーやウィンドウズキーなどの特殊キーもサポートしていますので、対応するアプリケーションよって様々な動作を一度の発話で行う事ができます。

キー登録例 / 設定例2

<属性> On l y/Top/Lastの設定例

キーに属性を設定することで、音声入力をより幅広く活用することが可能になります。
それぞれの属性を機能に合わせて正しく設定することにより、連続で発話しながら入力操作をよりスムーズに進める事ができます。

Only

Only属性のキーが音声認識した場合、そのキーのみが認識（実行）されます。
主に「はい」「いいえ」「とりけし」などコマンド系に使用します。

使用例　・「とりけし」に「Ctrl+Z」を割り当て、前回入力内容を戻す。

Top

Top属性のキーが音声認識した場合、それ以前に音声認識した結果は無視されます。
必ず最初に使用するキーに割り当てます。
※Onlyでも同様の操作が可能ですが、連続して発話したい場合に使用できます。

使用例　・「型番」「1」「2」「3」
対象のアプリケーションで対象の入力項目にショートカットキーが割り当てられている場合に使用できます。
「型番」の入力項目がF1キーで入力項目が選択されるアプリケーションの場合、キー設定で「かたばん」にF1キーを割り当て、「かたばん」の認識で「型番」入力項目を選択させ、その後に続く入力したい内容（ここでは「1」「2」「3」)を発話し認識させます。

Last

Last属性のキーが音声認識した場合、それ以後に音声認識した結果は無視されます。
連続発話中の必ず最後に使用するキーに割り当てます。
※Onlyでも同様の操作が可能ですが、連続して発話したい場合に使用できます。

使用例　・「1」「2」「3」「入力完了」
「入力完了」にEnterキーを設定して(ここでは「1」「2」「3」の)入力を確定する

キー登録例 / 設定例3

<コマンド> Wait/Speech Start/ClipBoard Speechの設定例

Wait/Speech Startは仮想キーコード以外に設定できるコマンドです

Wait

キー送信の間隔を調整する場合に使用します。(ミリ秒単位で設定)
ExcelなどのEnterやTabによるセル移動など、処理完了にある程度のキー入力待ちが必要な場合設定します

Speech Start

キー入力中に合成音声の再生を開始します。
主に特殊操作のクリップボードに保存されている文字（合成音声読みのルール通りの場合のみ）を再生する場合に使用します。
※キー設定で合成音声よみに「*」が指定されている場合

ClipBoard Speech

クリップボードに保存されている文字（合成音声読みのルール通りの場合のみ）を再生する場合に使用します。
※1.　キー設定で合成音声よみに「*」が指定されている場合の**Speech Start**と同等

キー登録例 / 音声認識よみ（読み仮名）設定について

「音声認識」「音声認識よみ」欄に入力する文字はひらがなのみ（一部例外有り）で入力します。
ここでは認識精度をあげるためにどのような登録が良いか例をあげます。

1　登録出来る文字

読みとして登録できるのは・・・「ひらがな」「ー(伸ばす音)」「.(ピリオド)」のみです。

2　発音表記

ー（伸ばす音）はある程度規則性があります。たとえば、「とうきょう」という発音は「とうきょー」という発音で登録しても同じです。キー登録時に自動で変更されます。

一部の単語では、同じように書いても伸びる音では無い場合があります。例えば地名の丸の内は「まるのうち」と記述しますが、このまま書くと「まるのーち」という読みとして認識してしまいます。これを避ける為に、ピリオド記号を利用します。

正確に分けて発音する場合には「.(ピリオド)」を使って「まるの.うち」と記述することで、強制的に「まるのうち」として読みを登録することが可能になります。

3　短い発音や似ている発音

短い発音や似た発音は誤認識が多くなります。例えば、「サッシ」と「サシ」などは発音での違いは（sa s si）と（sa si）で子音１音のみが違う音となります。子音自体が通常短い発音で入力レベルも小さくなりがちなので判定が難しくなります。

数字などでも「４（し:si）」「２（に:ni）」で登録を行うと、子音１音での判定となり認識精度が悪くなる可能性が高いので「４（よん）」「２（に）」という形で登録される事をお薦めいたします。

また登録される文字数自体もひらがな５文字以上で構成されるような読みを登録することで認識精度が高くなると想定されます。

4　発話内容と入力内容が異なる発話

「つぎ**へ**」や「こんにち**は**」は、実際発話する場合は「つぎ**え**」、「こんにち**わ**」と発話されるので、入力は「つぎえ」、「こんにちわ」とする必要があります。

「へ」はhe、「は」はhaと認識され、「e」や「wa」とは認識されません。

用語集

AmiVoice Keyboardで使用されている用語の説明です。

キーコード

キーボードのコード(仮想キーコード)です。

キー名

登録したキーコードとそれに対応した音声認識と合成音声よみを組合わせたものの名称です。

キーリスト

登録したキー名の一覧です。
キーリストを元に音声認識で使用されるグラマ(音声認識辞書)が作成されます。
またキーリストは複数作成することができ、切り替えて使用することができます。

キー操作

キーコードとコマンド(Wait/Speech Start/ClipBoard Speech)の組合わせです。

キー編集

キー名ごとのキーコード類の編集(追加/変更/削除)することを指します。

お問い合わせ窓口

説明書を見ても分からない場合や、製品が動作しない場合など、本製品に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

株式会社アドバンスト・メディア　SDX事業部

AmiVoice® Keyboard

サポート用メールアドレス

ami-keyboard-support-ml@advanced-media.co.jp

特記事項

MicrosoftおよびWindowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
AmiVoice®は株式会社アドバンスト・メディアの登録商標です。
本製品はアクエスト社の規則音声合成ライブラリを使用しており、
その著作権は同社に帰属します。
その他の製品名および社名は各社の商標または登録商標です。